

我^{○平}清盛身のゑいぐわをきはむるのみならず、一門共に繁昌して、ちやく子^{○平}まげもり内大臣の左大將、次男むねもり中納言の右大將、三なん知盛三位中將、ちやくそんこれ盛四位の少將、すべて一門の公卿十六人、殿上人三十よ人、諸國のまゆ領ゑふ諸司つがふ六十よ人なり、世には又人なくぞ見えられける、昔ならの御門の御時、神龜五年朝家に中衛の大將をはじめおかる、大同四年に中衛を近衛にあらためられしより此かた、兄弟左右にあひならふ事わづかに三四か度なり、文徳天皇の御時は、左によしふさ右大臣の左大將、右に良相大納言の右大將、これは閑院の左大臣冬嗣の御子なり、まゆまやく院の御宇には、左にさねより小野宮殿、右にもろすけ九條殿、眞信公^{○忠}の御子なり、後冷泉院の御時は、左にのりみち大二條殿、右によりむねほり川殿、御堂の關白^{○道}の御子なり、二條の院の御宇には、左にもとふさ松殿、右にかねざね月の輪殿、法性寺殿^{○忠}道の御子なり、是みな攝ろくの臣の御子そく、凡人に取ては其れいなし、殿上のまじはりをだにさらはれし人^{○忠}の子孫にて、禁色雜袍をゆり、綾羅さんまうを身にまどひ、大臣の大將になりて、兄弟左右にあひならふ事、末代とは云ながら、ふしぎなりし事共なり、其外御むすめ八人おはしき、皆とりく^{○中}にさいはひ給へり、^{○中}一人子^{○德}は后にた^{○中}せ給ふ、廿二にて皇子^{○德}安御誕生有て、皇太子にたち、位につかせ給ひしかば、院がうかうぶらせ給ひて、建禮門院とぞ申ける、入道相國の御娘なるうへ、天下の國母にてましませば、どうかう申におよばれず、一人は六條の攝政殿^{○森原}の北のまん所にならせ給ふ、是は高倉の院御ざいゐの御時、御母代とて准三后のせんじをかうぶらせ給ひて、白川殿とておもき人にてぞましく^{○中}ける、^{○中}日本あきつしまは纔に十六かこく、平家知行の國卅よか國、すでに半國にこえたり、其外莊園田畠いくらといふかすをまらす、さらちうまんにして、だう上花のごとし、けんきぐんじゆして、門前市をなす、やうまうの金けいまうの玉、ごきんのあや、まよくかうの錦、七ちん万ほう、一つとしてかけたる事なし、歌だう